

日本語非母語話者に見られる「ら抜きことば」の使用状況

——共同研究の報告——

ダニエル・ロング (文責)、梁井久江、橋本直幸、朴良順、
合津美穂、宮田剛章、金秀容、馮秋玉、関谷麻里絵

外国人学習者におけるら抜きことばの使用状況を調べるため、2002年度の東京都立大学の大学院ゼミでアンケート調査を実施し、共同研究を行った。以下はその結果の概要である。

話者の属性、経験などに関するフェースシート項目は次の通りである。性別、年齢、国籍、滞日年数、現在の居住地、日本での居住歴、職業、母語、日本語学習歴、使用した教科書、日本語を学び始めた動機、家庭内の使用言語、職場・学校の使用言語、日本語で話す機会の頻度、よく接する日本人、日本語能力試験のレベル。インフォマントの母語は次の通りであった(括弧の中は人数)。韓国語(48)、中国語(北京語)(21)、複数の中国方言(3)、モンゴル語(2)、ミャンマー語(2)、英語(2)、閩南語(2)、タイ語(2)、フランス語(1)、広東語(1)、インドネシア諸語(1)、その他(1)。

ら抜きことばに対する意識を対になっている評価語で尋ねた。結果は表1の通りであった。(左の語は1、どちらでもないは2、右の語は3として平均値を算出した。)

表1 「ら抜きことば」に対する意識

評価語の対	平均値
良い—悪い	1.83
標準語—標準語ではない	2.26
明るい—暗い	1.58
正しい—間違った	2.14
上品—下品	2.15
固い—やわらかい	2.58
形式ばった—形式ばらない	2.40
活発な—活発でない	1.43
早い—遅い	1.36
ふつう—ふつうではない	1.66
分かりやすい—分かりにくい	1.77

新しい—古い	1.44
好き—嫌い	1.80
丁寧—乱暴	2.09

ら抜きの使用状況に関する 24 項目、およびその結果は表 2 に示した。

表 2 非母語話者のラ抜き使用率（86 人分のデータ）

項目番号	動詞	語幹末	語幹長	肯否	スタイル	者人数	ら抜き使用者の%	ら抜き使用平均値※	標準偏差
1.	着られる	i 段	1	肯定	普通体	61	71	2.52	1.754
2.	寝られる	e 段	1	肯定	普通体	51	59	2.97	1.818
3.	来られる	来	1	肯定	普通体	49	57	3.01	1.844
4.	起きられる	i 段	2	肯定	普通体	45	52	3.22	1.862
5.	食べられる	e 段	2	肯定	普通体	55	64	2.88	1.765
6.	覚えられる	e 段	3	肯定	普通体	19	22	4.37	1.338
7.	着られない	i 段	1	否定	普通体	50	58	3.05	1.840
8.	寝られない	e 段	1	否定	普通体	53	62	3.06	1.771
9.	来られない	来	1	否定	普通体	46	54	3.20	1.833
10.	起きられない	i 段	2	否定	普通体	39	45	3.52	1.800
11.	食べられない	e 段	2	否定	普通体	51	59	3.20	1.693
12.	覚えられない	e 段	3	否定	普通体	9	11	4.73	.913
13.	着られます	i 段	1	肯定	丁寧体	38	44	3.47	1.852
14.	寝られます	e 段	1	肯定	丁寧体	44	51	3.20	1.865
15.	来られます	来	1	肯定	丁寧体	32	37	3.67	1.805
16.	起きられます	i 段	2	肯定	丁寧体	32	37	3.73	1.772
17.	食べられます	e 段	2	肯定	丁寧体	41	48	3.55	1.706
18.	覚えられます	e 段	3	肯定	丁寧体	11	13	4.59	1.141
19.	着られません	i 段	1	否定	丁寧体	34	40	3.74	1.737
20.	寝られません	e 段	1	否定	丁寧体	36	42	3.63	1.796
21.	来られません	来	1	否定	丁寧体	31	36	3.76	1.755
22.	起きられません	i 段	2	否定	丁寧体	30	35	3.92	1.654

23.	食べられません	e 段	2	否定	丁寧体	37	43	3.70	1.681
24.	覚えられません	e 段	3	否定	丁寧体	10	12	4.69	.997

(※ 平均値の計算に次の値を使った。1=ら抜きのみ、2=ら抜き優先の併用、3=同じ併用 4=保守形優先の併用、5=保守形のみ)

これまでの日本人ネーティブを対象にした研究では、「ら抜きことば」の使用を左右する言語内的要因（語幹の長さ、イ・エ段接続および「来る」、肯定・否定、普通体・丁寧体）の重要性が指摘されていた。今回の非母語話者を対象とした我々の研究でもこうした要因に注目した。次の表 3-1～3-3 で、様々の要因による結果の違いを示した。

表 3-1 「ら抜きことば」の使用率と言語内的要因

「ら抜きことば」 使用率	語幹 1 拍 (12 項目平均)	語幹 2 拍 (8 項目平均)	語幹 3 拍 (4 項目平均)	
イ段	着る	起きる		47.8
エ段	寝る	食べる	覚える	40.4
来る	来る			45.8
	50.8	47.9	14.2	

表 3-2

肯定形 (12 項目平均)	否定形 (12 項目平均)
46.3	41.3

表 3-3

普通体 (12 項目平均)	丁寧体 (12 項目平均)
51.0	36.5

以下で、言語内的要因によるいくつかの主要な対立に注文し、その今回のデータにおける有意差検定 (t 検定) を行った。結果は次の表 4 に示した (ら抜きになりやすい方を網掛けになっている)。

表4 「ら抜きことば」の使用を左右する言語内の要因による有意差

対立	比較される項目名	t 値	有意確率
<u>イ</u> 段・エ段	着られる・寝られる	-2.650	<u>.010</u>
<u>イ</u> 段・来る	着られる・来られる	-2.687	<u>.009</u>
エ段・来る	寝られる・来られる	-.244	.808
イ段・エ段	起きられる・食べられる	1.672	.098
イ段・エ段	着られない・寝られない	-.051	.959
イ段・来る	着られない・来られない	-.740	.461
エ段・来る	寝られない・来られない	-.656	.513
イ段・エ段	着られます・寝られます	1.518	.133
イ段・来る	着られます・来られます	-1.016	.313
<u>エ</u> 段・来る	寝られます・来られます	-2.946	<u>.004</u>
イ段・エ段	着られません・寝られません	.529	.598
イ段・来る	着られません・来られません	-.055	.956
エ段・来る	寝られません・来られません	-.794	.429
<u>1</u> 拍・2拍	着られる・起きられる	-3.215	<u>.002</u>
1拍・2拍	寝られる・食べられる	.419	.677
<u>2</u> 拍・3拍	食べられる・覚えられる	-6.602	<u>.000</u>
<u>1</u> 拍・3拍	寝られる・覚えられる	-6.247	<u>.000</u>
<u>1</u> 拍・2拍	着られない・起きられない	-1.972	<u>.052</u>
1拍・2拍	寝られない・食べられない	-.723	.472
<u>2</u> 拍・3拍	食べられない・覚えられない	-7.635	<u>.000</u>
<u>1</u> 拍・3拍	寝られない・覚えられない	-7.731	<u>.000</u>
1拍・2拍	着られます・起きられます	-1.172	.245
<u>1</u> 拍・2拍	寝られます・食べられます	-1.977	<u>.051</u>
<u>2</u> 拍・3拍	食べられます・覚えられます	-5.981	<u>.000</u>
<u>1</u> 拍・3拍	寝られます・覚えられます	-6.904	<u>.000</u>
<u>1</u> 拍・3拍	寝られません・覚えられません	-5.519	<u>.000</u>
<u>肯</u> ・否	着られる・着られない	-2.941	<u>.004</u>
<u>肯</u> ・否	寝られます・寝られません	-2.399	<u>.019</u>

肯・否	食べられる・食べられない	-1.564	.122
肯・否	来られる・来られない	-1.145	.255
肯・否	来られます・来られません	-.471	.639
肯・否	食べられます・食べられません	-.930	.355
肯・否	着られます・着られません	-1.597	.114
肯・否	寝られる・寝られない	-.436	.664
普・丁	来られる・来られます	-3.050	.003
普・丁	来られない・来られません	-2.741	.007
普・丁	着られる・着られます	-4.739	.000
普・丁	着られない・着られません	-3.409	.001
普・丁	寝られる・寝られます	-1.134	.260
普・丁	寝られない・寝られません	-2.615	.011
普・丁	食べられる・食べられます	-3.024	.003
普・丁	食べられない・食べられません	-2.706	.008

関連文献

遠藤潤一 (1995) 「“ラ抜き言葉” 本学学生の意識」『跡見学園女子大学紀要』第28号

木下哲生 (1997) 「1995年のテレビ番組における一段動詞およびカ行変格活用動詞の可能動詞いわゆる『ら抜き言葉』の用例と分析」『防衛大学校紀要（人文科学篇）』74

木下哲生 (1997) 「漫画における『見れる』の現状と用法の広がり」『防衛大学校紀要（人文科学篇）』75

小林伊智郎 (1996) 「いわゆる『ら抜きことば』の用いられやすさに下接語が与える影響について」『拓殖大学日本語紀要』6

小松英雄 (1999) 『日本語はなぜ変化するか』笠間書院

島津正美 (1995) 「助動詞『れる』『られる』についての考察：『ら抜きことば』を中心に」『教育情報科学』第23号，北海道教育大学函館分校教育情報科学編集委員会

辛昭静 (2002) 「『ら抜き言葉』の使用率に影響する言語内的要因と外的要因」国語学会2002年度春季対大会発表要旨集

- 陣内正敬・Irma Hermawati (1994)「『ら抜き言葉』は外国人にどのように受け入れられているか」『言語文化論究』第5号, 九州大学言語文化部
- 長尾高明 (1996)「『現代語』の可能性 — ら抜き言葉について」『国語展望』99, 尚学図書
- 中田敏夫 (1982)「可能表現変遷に関する一検証 — 現代東京の高校生の調査より」『日本語研究』第5号, 東京都立大学国語学研究室
- 長友文子 (1997)「可能形の規則による動詞の分類—日本語教育から見た可能表現の研究(1)」『和歌山大学教育学部紀要人文科学』47
- 舩田弘子 (1995)「『ら抜きことば』に対する意識と使用の実態専門学校生を対象としたアンケートならびに授業を通じて」『読書科学』39巻1号, 日本読書学会
- 森川結花 (1999)「可能動詞に見られる“日本語らしさ”その発想を日本語教育の中でどう教えるか」『言語と文化』第3号, 甲南大学
- 山形浩 (1999)「群馬県の大学生にみる〈ら抜き言葉〉—10年後の変化相を中心に—」『群馬大学教育学部紀要人文社会科学編』第48巻
- 山崎孝雄 (1998)「『ら抜き』言葉について」『日本文学会誌』第10号, 盛岡大学日本文学会
- 吉田健二 (1996)「文法事象変化における語彙的拡散 — 女子短大生の『ら抜きことば』の調査から—」『松蔭女子短期大学紀要』第12号
- Matsuda, Kenjiro (1993)“Dissecting analogical leveling quantitatively: The case of the innovative potential suffix in Tokyo Japanese,” *Language Variation and Change*, 5-1
- (Daniel Long・東京都立大学。やない ひさえ、はしもと なおゆき、パク ヤンスン、ごうず みほ、みやた たけあき、キム スヨン、フォン シュウギョク、せきや まりえ・東京都立大学大学院生)